

要約

今回の発表は、博士論文を作成する上で利用する第一次資料の整理に関する内容である。考察対象は、日露戦争前後から満洲事変前までの時期における日本軍による調査活動および調査結果として出版された資料である。具体的に展開すると、一八九三年に出版した『蒙古地誌』、『東蒙古誌草稿』、『東蒙事情』、一九一九年に出版した『蒙古地誌』、『東部内モンゴル調査報告』という五つの調査報告をめぐって考察を行い、焦点を主に土地問題と社会制度に当てる。本研究には二つの目的がある。一つは、軍指導部に派遣された工作人員の内モンゴル認識が、日本の対内モンゴル政策といかなる関係を持っているのかを把握すること。もう一つは、工作人員の内モンゴル地域社会に対する理解を分析することで新しい歴史像の提示を試みる。

口頭報告の内容については、次のようになる。

第一部分：

- 1.日本軍による内モンゴル調査の背景と目的
- 2.軍事調査の工作人員像と満鉄調査部
- 3.調査対象の説明

第二部分：

- 1.調査報告における対内モンゴル認識の変化について
- 2.「問題空間」創出ために利用された認識
- 3.まとめ—調査報告と内モンゴル政策の関係

第三部分：

- 1.調査報告による内モンゴルにおける対立主体への再認識
- 2.土地問題が民族独立運動につながったことに対する疑問
- 3.内モンゴルの自由と権威主義

第一部分は、軍事調査を担う機関の説明からはじまり、内モンゴル調査の経緯と目的を説明する。第二部分は、各軍事調査を日本の対内モンゴル政策に照らし合わせ、意図的に利用された認識について述べる。最後の部分は、いままで通説的なことに対する違和感、新たな研究課題の可能性について論じる。（発表当日までには多少変更がある。）

参考資料として、調査報告の内容や地図などの情報を以下のようにまとめる。

平和学会関西地区研究会口頭発表 2018.1.14

報告者：国際公共政策博士後期課程二年 あるす

テーマ：日本陸軍の対内モンゴル認識——軍による調査活動をめぐって

参考資料

1. 調査報告の内容

『支那地誌卷十五下（蒙古部）』参謀本部編纂科編 1892年出版

（国書刊行会による復刻版の題目：『蒙古地誌』）

二十一項目：位置（広袤分界）、山脈、河江、湖澤、沙漠、気候、物産（動物・鉱物・植物）、風俗、政体、宗教、歳出入、教育、兵制、製造、貿易、区分（人工幅員）、道路、電信、通貨、都府、史略

『東部蒙古誌 草稿 上・中・下』関東都督府陸軍部編 1908年出版

上巻

第一編 概説、第二編 建置沿革、第三編 地理、第四編 行政、第五編 各部ノ状況、第六編 宗教及教育、第七編 風俗

中巻

第八編 殖産興業

下巻

第九編 交通

付録及付図

『東部内蒙古調査報告』 東部内蒙古調査報告編修委員編 1914年出版

第1巻：第1篇 旅行経過ノ概要、第2篇 東部内蒙古一般ノ状況、第3篇 軍事

第2巻：第4篇 商工業附財政

第3巻：第5篇 交通

第4巻：第6篇 鉱業、第7篇 農業、第8篇 牧畜

第5巻：第9篇 風教、第10篇、衛生

第6巻：第11篇 旅行日誌

第7巻：第12篇 居留地選定ニ関スル意見、第13篇 結論

『東蒙事情（1、2、3号および特別号）』参謀本部編 1915年～1916年出版

1号

1 東部蒙古ノ概況、2 東部蒙古ノ交通、3 東部蒙古ノ商業、4 東蒙主要都市ノ状況、5 東部蒙古ノ農業、6 鄭家屯付近ノ状況、7 洮南付近実業調査、8 錦県地方ノ鉱山、9 吉林省ノ森林、10 内蒙古統治機関、11 帝国ノ対滿施設ニ関スル北京「ガゼット」紙ノ批評、12 雑件

2号

1 東部内モンゴルの風俗、2 東部内モンゴルの教育並に宗教、3 蒙古王公の一般財政状態、4 東部内モンゴルの主要都市の状況（前号の続）、5 東部内モンゴルの曹達、6 「ダブスノール」の食塩、7 蒙古の露貿易、8 満蒙経営と山東出稼苦力、9 蒙古王公の支那官民並に旗民に對する勢力、10 満蒙に於ける通貨及金融機関、11 南滿洲に於ける農事試験成績、12 赤峰官民の親日的傾向、13 満蒙移住に就て、14 開魯付近の状況、15 白音他拉の状況、16 奉天省錦州に於ける石綿製造利用有限公司の状況、17 満蒙に關する支那新聞の所論、18 雜件
3号

1 東部内モンゴルの道路、2 東部内モンゴルの通信機関、3 蒙古の交界地方に於ける水運、4 牧畜、5 熱河付近に於ける鉍山、6 東部内モンゴルの茶、7 満蒙に於ける豆油及豆粕、8 満蒙に於ける高粱酒、9 東部内モンゴルの小利源、10 日支交渉公文書、11 雜件特別号

1 袁大統領の密諭

2 日支条約の蒙古王公に及ぼせる影響及之に對する政策

3 蒙古官民の時局に對する状態

4 東蒙開發の急務

5 東蒙に於ける外国人と日本人との勢力比較

6 東蒙に向て我勢力を扶植する手段

7 邦人移住の適否

8 満蒙移民策

9 東蒙に於ける我移民保護方針

10 東蒙に勢力を扶植する為め蒙人利用方針

11 蒙古開發の為め日本文明紹介の必要

12 蒙文雑誌発行の必要

13 病院の設置及醫師配布の必要

14 東蒙開發の為め特種金融機関設置の必要

15 東蒙に於ける教育機関の整備

16 課税及警察権の改正

17 東蒙に於ける土地購入の手段 附蒙古に於ける土地の性質

18 満蒙に於ける農工業経営方針

19 東蒙に於ける農業改良の方法

20 牧畜の経営及改良に關する意見

21 満蒙経営上遼西地域の必要 附錦州の価値並施設を要すべき主ナル事項

22 熱河蒙古開發の手段並滿漢人の北進防止策

23 西土默特及東喀喇沁旗下に於ける農業経営

24 西土默特及東喀喇沁旗下に於ける鉍業経営

25 圍場附近に於ける農業経営

平和学会関西地区研究会口頭発表 2018.1.14

報告者：国際公共政策博士後期課程二年 あるす

テーマ：日本陸軍の対内モンゴル認識——軍による調査活動をめぐって

26 新邱炭田ノ概況竝其採掘ノ必要

27 多倫諾爾附近ニ於ケル商經營

28 東蒙鉄道經營

29 東蒙達頼罕旗下払下地事情 附達旗河南北払下土地規定

30 満蒙ノ境域問題

『蒙古地誌（上巻・中巻・下巻）』 柏原孝久,浜田純一 著 1919年出版

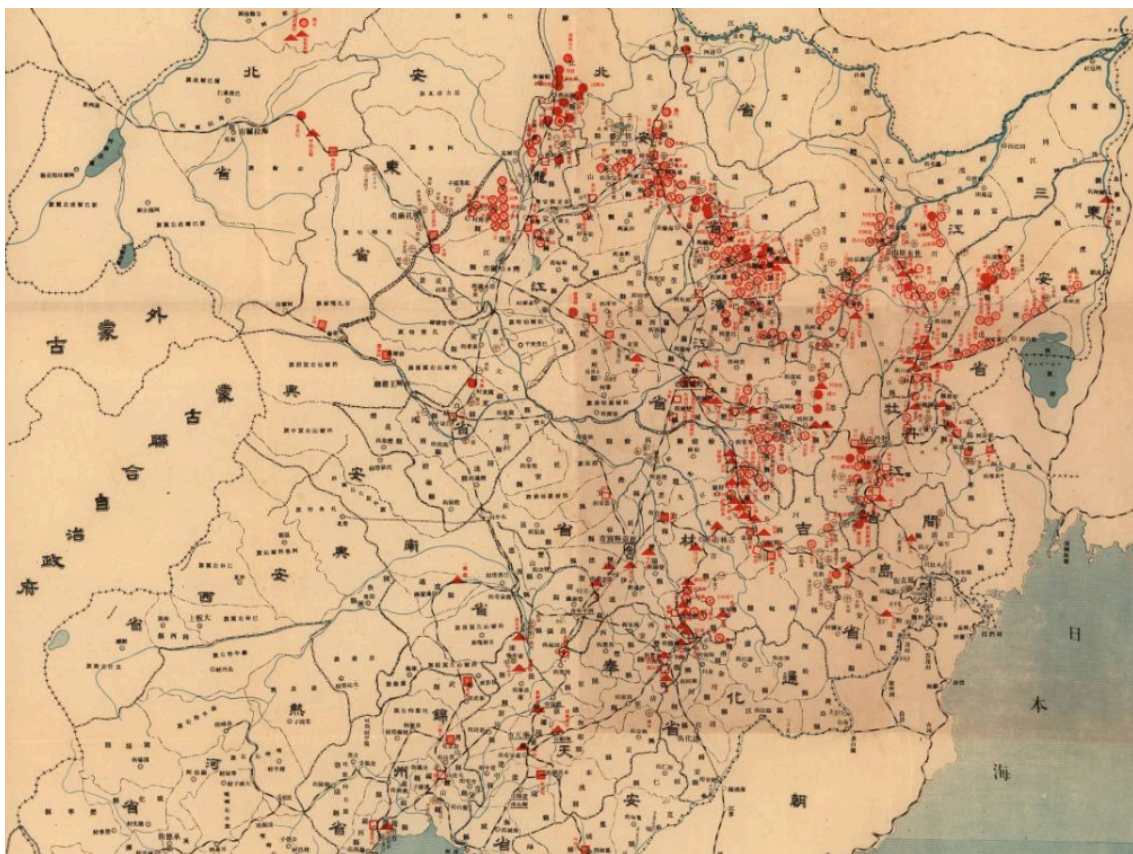
上巻：1 総論、2 史略、3 地理、4 行政

中巻：5 殖産興業、6 交通

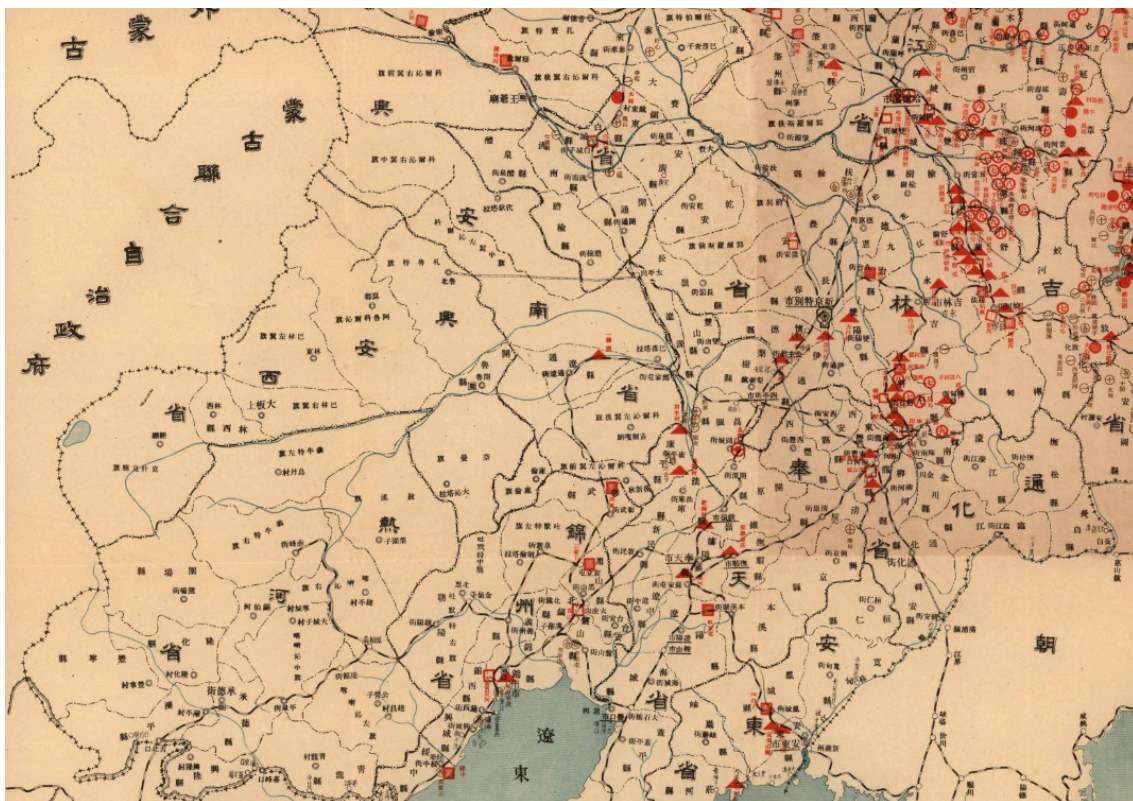
下巻：7 宗教、8 教育、9 風俗、10 各旗通志、11 都邑概況、12 結論

2.地図

1) 満洲開拓農民入植図 1



満洲開拓農民入植図 2



滿洲国と蒙古聯合自治政府（中華人民共和國地形図 1997 版より作成）

